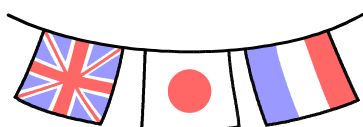




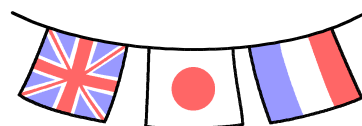
わかみどり



<http://hirabayashi-e.murakami.ed.jp>



運動会よもやま話



金色の絨毯のように輝いていた田んぼも、ほぼ収穫を終え、今は静かにたたずんでいます。少しの寂しさと無事収穫ができたという安堵感が感じられます。

さて、先日は平林小学校の運動会に多くの皆様からご来場いただき、誠にありがとうございました。この状況下での開催に不安もありましたが、子どもたちの真剣な眼差しや弾ける笑顔が見られ、やってよかったなあと感じました。



平林小学校は令和2年度から運動会は秋に開催しています。新型コロナウイルス感染予防の観点から秋に移したわけですが、本来、運動会は秋に行うものでした。稲刈りを家族総出で行い、一段落した頃に行っていたのです。地域によって多少異なりますが、秋には小学校と中学校が一緒になって行う「大運動会」、春は小学校だけの「小運動会」と区別して行っていました。大運動会はそれこ

そ地域の一大行事でした。お昼には家族でお弁当を食べて楽しんでいました。しかし、その後は小学校と中学校の教育課程の違い、また中学校の統合などから一緒に行うことができなくなってしまいました。それ以来、小学校では春の運動会、中学校では秋の運動会が定着していったのです。

また、少し前までは運動会と言えば「鼓笛隊」の演奏がどの学校でも行われていました。その始まりは昭和39年（1964年）の新潟国体です。新潟国体で初めて国体の歌なども作られ、小学生の鼓笛隊はドラムマーチや新潟国体の歌、佐渡おけさなどを演奏したようです。そこから新潟県下の小学校に広がり、運動会と言えば「鼓笛隊」の演奏が一つの目玉となっていったのです。しかし、その後は児童数の減少、指導者不足、楽器の維持管理費用などのため、少しずつ縮小または中止せざるを得なくなっていったのです。ちなみに砂山小学校では令和元年度まで「メロ鼓隊」として活躍していました。旧平林小学校でも平成12年までは活動していたようです。また、この昭和39年は、日本で初めてオリンピックが開催された年でもあります。国体はいつも秋に開催されていましたが、この年ばかりは春に開催されました。それは東京オリンピックの開会式が10月10日となったからです。それから近年まで10月10日は国民の祝日「体育の日」となっていたのです。

このように時代とともに運動会の形も内容も変化しています。しかし、運動会のねらいである「団結心」「協力・協調」「創意・工夫」「愛校心」を養うことは不易のことです。来年の運動会ではご家族、地域の皆様と一緒にいけることを心から願っています。 校長 高橋 明

